

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	㈱アドヴィックス新社屋	階数	地上7F
建設地	愛知県刈谷市昭和町二丁目1番地の	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	580 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,080 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年7月30日
敷地面積	9,315.00 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 青島設計
建築面積	2,410.71 m <sup>2</sup>	確認日	2014年8月5日
延床面積	15,849.89 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 青島設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 81%  
 ③上記②以外の 88%  
 ④上記+ 99%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>10.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	10.8 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	10.8 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}}$  × 100  
 建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}}$  × 100



Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>									<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>									
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	-
2 設備騒音対策						-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>									
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	3.0	-
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
<b>1.3 吸音</b>						3.0	0.20	3.0	-
<b>2 温熱環境</b>									<b>3.1</b>
<b>2.1 室温制御</b>									
1 室温						3.2	0.50	-	-
2 負荷変動・追従制御性						3.0	0.38	3.0	-
3 外皮性能				Low-E複層ガラス、金属断熱サンドイッチパネルの採用		4.0	0.25	3.0	-
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-
5 温度・湿度制御						-	-	-	-
6 個別制御						-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-
8 監視システム						-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>						3.0	0.20	3.0	-
<b>2.3 空調方式</b>						3.0	0.30	3.0	-
<b>3 光・視環境</b>									<b>3.1</b>
<b>3.1 昼光利用</b>									
1 昼光率						3.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口						-	-	3.0	-
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	-
<b>3.2 グレア対策</b>									
1 照明器具のグレア						3.0	1.00	3.0	-
2 昼光制御						-	-	-	-
3 映り込み対策						-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>						4.0	0.15	3.0	-
<b>3.4 照明制御</b>						3.0	0.25	3.0	-
<b>4 空気環境</b>									<b>3.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>									
1 化学汚染物質				全面的にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	3.0	-
2 アスベスト対策						-	-	-	-
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>									
1 換気量						2.3	0.30	-	-
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-
4 給気計画						1.0	0.33	3.0	-
<b>4.3 運用管理</b>									
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.20	-	-
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>									<b>3.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>									
1 広さ・収納性						3.7	0.40	-	-
2 高度情報通信設備対応				コンセント容量が50VA/m <sup>2</sup> 以上と設定		3.6	0.40	-	-
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	3.0	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>									
1 広さ感・景観				事務室の天井高が2.7m以上		3.6	0.30	-	-
2 リフレッシュスペース						4.0	0.33	3.0	-
3 内装計画				エントランスの照明計画と内装計画が一体として計画している		3.0	0.33	-	-
<b>1.3 維持管理</b>									
1 維持管理に配慮した設計				防汚性高い建材を使用		4.0	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保				流し台など、十分な清掃用具スペースを十分設置している		4.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務						-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>									
1 耐震性						3.2	0.31	-	-
2 免震・制振性能						3.0	0.48	-	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>									
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				② 耐久性がある内装建材を使用している		3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						5.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性				3.8	0.19			
1 空調・換気設備		②	災害時の使用が可能なように計画している	4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備			中水などの利用が可能なように計画している	4.0	0.20			
3 電気設備			非常用発電設備などを備えている	5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.4	0.29			3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			
1 階高のゆとり		②	階高は3.9m以上	5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率は0.12	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			3.0
1 生物環境の保全と創出	●	③		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.4
LR1 エネルギー				-	0.40			3.7
1 建築物の熱負荷抑制				3.0	0.30			3.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用			太陽光パネルを設置するように計画している	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			エネルギー利用効率化設備を採用する	4.7	0.30			4.7
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.7				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.5	0.20			3.5
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			節電などの運用方針を計画している	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.2
1 水資源保護				3.8	0.15			3.8
1.1 節水			節水型機器を使用する	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			雨水利用をしている	4.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.2	0.63			3.2
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	東リ(株)GA-100EM、東リ(株)ロイヤルウッド	4.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率は一般的な事務所(参照値)と同等	3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●		十分な駐車場、駐輪場を確保している	3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			4.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式  
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点
- ②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和
- ④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社アドヴィックス新社屋

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィス環境を総合的に向上させると同時に地域環境に配慮した新社屋の整備</li> </ul>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Low-E複層ガラス、金属断熱サンドイッチパネルの採用など、建物の環境性能(断熱・通風・換気・採光)の向上により、夏季の室温上昇、冬季の放熱を抑制し生活環境の向上を図る。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執務室の天井高さを十分に確保し、オフィス空間としての快適性に配慮している。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に植栽や敷地内通路等を確保し、敷地内温熱環境の向上にも配慮している。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁に金属断熱サンドイッチパネルを使用し、断熱性能を高めている。</li> <li>・高効率照明器具、LED照明器具を採用している。</li> <li>・太陽光発電装置を設置する。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質含有材料の使用は、極力回避する。</li> <li>・指定建築材料はJIS・JAS認定品、使用材料は全てF☆☆☆☆とする。</li> <li>・節水器具の採用など節水対策を実施している。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボリューム感を周囲と調和させ、周辺住環境の向上を目指す。</li> <li>・敷地内に十分な台数の駐車場を確保し、地域への交通負荷抑制を図っている。</li> </ul>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特段なし</li> </ul>